

■□■ グループディスカッション・まとめ①

■ グループ1:次世代へ森を引き継いでいくために！ 森林問題への対応を考える ナラ枯れ、シカ害、大木化した木々の管理など 課題への対応と森づくり

質問:●コバノミツバツツジについて

Q コバノミツバツツジが多い理由は？地質が原因ですか？

- ・コバノミツは、花崗岩で、照度30%以上の明るい森に育つ。
- ・コバノミツバツツジは柴として利用されていた。このあたりは、柴山として使用されてきた。
- ・平安京の時代でのやまづくり計画

質問:●シカについて⇒シカ対策は？

Q 宝が池全体でシカが住めるのは3頭が限界というが、なぜ減らないのか？

◎捕獲が必要 森林の利用低下

Q シカの生息地

- ・里山としての宝が池周辺？
- ・そのほか、北山等奥山から移ってきたもの？

●シカ害  新芽→下草 の食害を防ぐには・・・

- ・パッチディフェンスによって小さいエリアをどんどん囲う
- ・市街地であることのむずかしさ
- ・地元の理解
- ・罾や柵によって追いつめてゆく

●食害対策/森林管理がすすまない理由は

○地元への説明不足

⇒送り火や鳥獣害について、地元の人と一緒に考えるような場をつくる。

★地元・府・市に切り込んでゆくのが誰か、わかっていない。あるいは、いない。

★説明にいく人が誰なのかがわかっていない。あるいは、いない。

★ステークホルダーが誰なのか、考えられていない。共有されていない。

⇒・縦割りではなく、総合的に考えていく

- ・宝が池の恩恵を受けていたのは松ヶ崎の人

○市民による価値に対する認識の違い

- ・森の価値・山のイメージは年代によって異なる。認識の違いをそろえる（環境教育）

・どこに向けて発信？→街の人・関わっていない人

○シイ木の扱いをどうしていくか。景観的に問題視されることもあるので。

・そもそもシイ木って悪いイメージなのか。

○ナラ枯れって放っておいてもいいのではないかな？

(昔もナラ枯れは起こっていたはず)



<課題> ★価値の軸を誰が決める？ ★リスク対策

○山に行きたくなる魅力を広げる

・きのこ狩り、食べ物さがし、あけび・栗拾い

・伐って使う。暮らしにつながることで山が必要と感じる。

○里山林は使ってこそ価値がある。もっと林産物の利用を促進する。

●森の管理のあり方(希望と課題)

○シイの木の大規模な拡大を防ぎたい

○コバノミツバツツジを残したい

○シカの食害から守りたい

○写真展もしたい

○アカマツ林の再生試験をしてみたい。

○トレイルマップを作りたい

○明るいところは人が安心するので、子どもたちが遊びやすくするためにもっと樹木を切っても良いと思う。大文字山もだいぶきって雰囲気が変わりました。

○マツ林も、場所を選んで小規模なら再生が可能？

○子どもの楽園に薪ストーブを入れよう

⇒ハード的部分での拠点の必要性/ 府立大学 ・子どもの楽園 など

○活動ボランティアの立ち上げ (⇒誰が面倒をみる?)

○農地の生産環境との連携、連動

○新しく来た人が参加してくれるだろうか？

●宝が池の良さの共有と発信

○足回り・アクセスの良さ

○より自然に近い環境教育フィールド

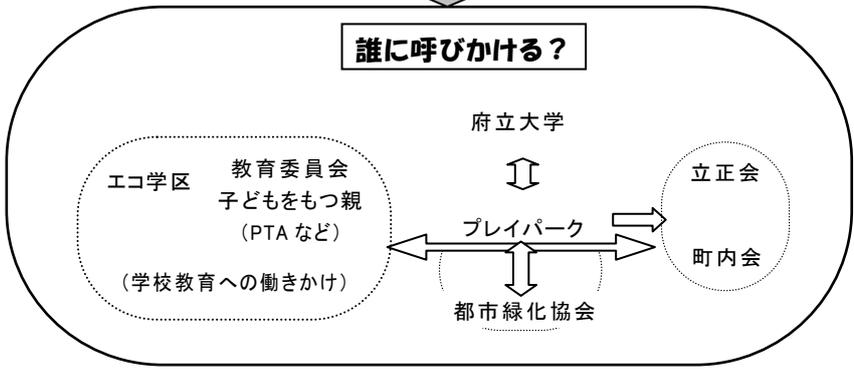
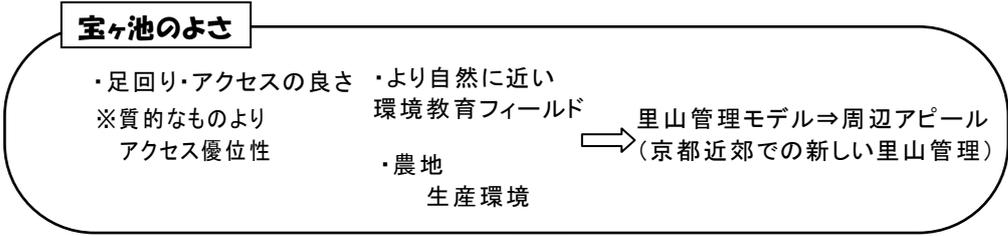
○京都近郊での里山管理モデルとして、周辺にアピール

○農地の生産環境を整える

●具体的アクション！ において・・・ 誰が、誰によびかけるか？(連携の形)

プレイパークが、・地区の小学校 ・エコ学区 ・立正会 町内会 (公財)京都市都市緑化協会 に。 京都府立大が ・学校教育 に。 地域の方が ・子どもを持つ親 (PTA など)

→プレイパークと京都府大を核にして、話しあうための場作りを！



具体的アクションへ

次回の WS で！

- ・活動ボランティア育成
- ・子どもの楽園に巻きストーブを！